

バイオクライマティックデザイン小委員会 2010年度 第3回

議事録

出席者（敬称略）：

大野（日本設計）、岡本（日本設計）、金子（エステック）、北瀬（環デザイン舎）、佐藤（神奈川大学 B4）、須永（首都大学東京）、センガ（秋田県立大学）、瀧野（神奈川大学 M1）、築山（旭化成ホームズ）、長谷川（秋田県立大）、平口（東京大学清家研究室）、廣谷（エコエネジーラボ）、深澤（神奈川大学）、中村（首都大学東京）、松井（首都大学東京）、宇野（電中研）

日時：2010年10月29日（金）12:00～15:00

場所：ベターリビングつくば建築試験センター

資料確認：

資料 3-0 第2回議事次第

資料 3-1 第3回議事録（深澤委員）

資料 3-2 第2回熱環境運営委員会 議事録（案）（長谷川委員）

資料 3-3 LCCM デモンストレーション住宅／つくばデザインコンセプト（金子委員）

議事内容：

議題 1. 前回（第2回）議事録確認

確認し、承認された。

補足（須永）：大会の細々分類について

「蓄熱」などは、「熱」、「バイオ」などに含まれるが、自然エネルギー利用の建物として考える場合は「バイオ」、蓄熱そのものの話であれば「熱」、という分け方と考える。

「環境設計」と「バイオ」に「環境建築」があり、「環境設計」から削除することを主張したが、残った。建物単体では「バイオ」、地域を含めた環境建築の話は「環境設計」という棲み分けになる。

議題 2. 熱環境運営委員会の報告・審議事項について（資料 3-2）

長谷川委員より、2010年10月23日に行われた、熱環境運鋭意委員会の報告があった。

補足（長谷川）

2. 大会の発表時間について改良すべきとの意見があったが、司会者の裁量によってうまくいっているので、現状で良いということとなった。
3. 再々分類について修正があれば、10月末までに猪岡主査に連絡。
4. 2011年度の研究協議会は、10月末までに須永先生に連絡。
6. 技術部門設計競技の課題提案として、バイオから「エコ改修」をあげたが、取り下げをお願いした。
7. 大会のオーガナイズドセッションについて、バイオから「エコ改修」を提案した。推薦理由書作成など、須永委員が対応した。
8. 予算の余分は、各小委員会に振り分けることとなった。
9. 2011年度の活動計画案・予算案は、申請書を作成した。委員会で承認された。
10. 2011年度の熱環境運営委員会の主査は宿谷先生となった。
11. 2011年度の熱シンポジウムの担当は、バイオクライマティックデザイン小委員会である。10月の熱シンポ会場、懇親会と熱運営委員会でアナウンスをした。

補足：設計競技のネタとして「エコ改修」、挙げたが、来年度は熱シンポがあるので、行うとすれば再来年度以降が良いと思い、取り下げた。

議題3. 来年度の熱シンポの企画について（長谷川）

札幌で行うことで進めている。

日時について：

- ・札幌市立大学であれば、10月15、16（土日）、10月22、23日（土日）、11月5、6日（土日）が可能。
- ・10月15、16日あたりでどうか。→齊藤委員が動きやすい日程に調整する。
- ・会社員の場合、土日の方が都合が良い。平日だと出張に出来るか？
- ・建築学会：8月23～25日@早稲田大学
- ・太陽エネルギー学会：9月21～23日@
- ・熱環境委員会の意向を聞いた方が良い。
- ・曜日設定については。→MLで確認してはどうか。

会場の候補：札幌市立大学、温泉。参加費を安くするには、大学の会場。

- ・札幌市立大学は、札幌中心から遠い。サテライト会場は使えるのか。→齊藤委員に確認
- ・札幌市立大学を使用すると、若干の補助が出る。

内容：

- ・ 出版本の内容をベースに企画を立てる。
- ・ 2011年2月頃に計画案を提出する必要がある。ペースをあげないといけない。
- ・ 前回のバイオは、沖縄で見学ツアーを2つ入れている。
- ・ シンポ素案を次回の委員会で提出。

6. 次回日程

熱シンポの打ち合わせ。

12月9日（木）17:00～19:00

4. 話題提供：金子委員

「ベターリビング つくば建築試験研究センター（試験研究本館）」

基本コンセプト：雑木林を残す。

持続可能な建築への配慮：両コア（RC）、中央構造（木造）とすることで、木造を多用。

自然エネルギー：

ガラス：アルゴン充填の複層ガラス。断熱性向上、採光をとる。

日射遮蔽：構造材は縦ルーバーの役目も。西ファサードの日射の制御を検討。

人工照明：タスクアンビエント。ブロック管理。

アルミサッシ：既製品。

杭：礎杭を利用した、地中熱利用。採熱用。水を注入して熱交換をする。

熱容量：南北コアの熱容量を利用。外断熱。

通気計画：通風、夜間換気。

暖房方式：南北コアに各1台10kWのHPを設置。温風床吹き出しシステム。HP
→ファンコイルユニット→OAフロア→床下ふきだし。

現状について：BL環境材料性能試験研究部の威さんから話をいただいた。

- ・ 現在、暖房運転中。ピーク時の50%のエネルギーを利用することを目的としている。
- ・ 今年の夏は、1FではほとんどACを使わなかった。
- ・ 去年の冬も1Fは暖房せず、2Fの窓を開けて逆に冷やしていた。
- ・ コスト面はまだ確認していない。

設計からの変更点：

- ・ 会議室天井にALCをむき出しにしていたが、吸音板を追加した。会議室としては、反響が問題になった。

- ・階段に柱を追加した。階段の上り下りの時に、振動が気になったので後付けした。

委員会に初めて参加された方々

松井（首都大学東京）：学校建築の環境規定

中村（首都大学東京）：開口部の断熱性能を上げる、内戸の設計

築山（旭化成ホームズ）：鉄骨・ALC住宅の蓄熱に関する研究

佐藤（神奈川大学）：ルーバーによる日射遮蔽

瀧野（神奈川大学）：吹き抜けを有する住宅の温熱環境

平口（東京大学）：戸建て住宅への自然風取り入れの方法

センガ（秋田県立大学）：エコスクールデータベース